

集合住宅における表出を促すための建築的工夫に関する研究

日大生産工(院) ○佐藤 愛 日大生産工 渡辺 康

1 はじめに

1.1 研究の背景と目的

かつて日本の町並みに見られた住民同士の立ち話や生活のあふれだしなど、住環境の公共空間におけるにぎわいは失われつつある。他人と関わる機会が少なくなり、廊下にただ単にドアが立ち並ぶ閑散とした集合住宅も少なくない。そこで、私は住人の生活を「表出」させるための仕組みを設計に取り入れることで、住民同士の交流を促せるのではないかと考えた。

表出とは住み手が自分の個性や好みを住まいの外に表現することであり、住み手の存在を外部に感じさせ、それを見る歩行者との間に間接的なコミュニケーションが成立する。

表出は設計者がつくるものではなく、住み手自らの手で行われるのが原則である。たとえば、壁飾りや植木などで玄関周りを飾ったり、サッカースタジアムの近くにある集合住宅では、各住戸のバルコニーにチームフラッグが結びつけられたりする。この例に建築的工夫はないようであるが、バルコニーに花壇や祝祭日の装飾品を飾るための装置を用意するように、建築的工夫によってより表出することは可能である。今後、このような建築的工夫を集合住宅に取り入れることで、今の閑散とした状態から、かつてのにぎやかさを取り戻せるのではないかと考える。そこで本研究では、建築雑誌等に掲載されている事例をもとに調査をし、表出を促すための手法を考察する。

1.2 研究方法

設計者が表出や生活のあふれだしなど、外との繋がりを意識してつくられた集合住宅の事例を見ていく中で、多く見られる言葉があった。

- ・リビングアクセス
- ・中間領域
- ・専用庭
- ・プラスワンルーム
- ・土間

- ・アクセスバルコニー
- ・SOHO
- ・長屋
- ・コーポラティブ

本研究では15年間(1999～2013年)の新建築で掲載された集合住宅、資料集成から10のキーワードに関連した36事例を抽出し、実際に行き、表出のある住戸の有無とその状況を調査する。調査範囲を限定するために、対象となる事例は東京都内のもののみとする。

1.3 表出・あふれだしの区別

「表出」

- ・住み手の個性を外に伝え住戸に豊かな表現を与えている植木鉢
- ・窓やガラスドアからわずかに伺える住戸内生活の破片
- ・玄関前に「我が家」らしい雰囲気を作り出すための演出行為、住戸の表を整え、飾る行為
- ・鉢植えや置物など外に向けて飾り付けること、居住者の趣味の表現
- ・外から見て美しく、個性的に飾ろうとする意識

「あふれだし」

- ・居住者に演出などの意図がなく一時保管やしかるべき収納場所がないために玄関前に物が置かれている状態
- ・収納不足などから住戸前にあふれだしたポリバケツ、自転車など
- ・路地空間に通常私的物品としての住戸内もしくは住宅敷地内に置かれる物で、主に交通以外の目的で設置された物品類

表出は外を意識しておかれた物を指し、収納できないことを理由に外に置かれた物はあふれだしとする。

A study on architectural ingenuity to encourage expression in housing

Ai SATO , Yasushi WATANABE

2.1 リビングアクセス

リビングアクセスは共用廊下に面してリビングが配置されているためプライバシーを和らげるための緩衝帯が重要である。清新北ハイツ、品川八潮ハイツ、屯は共用部、リビングとはレベル差があり、窓に面して花台を設けることでプライバシーを考慮されている。ライトコートKは吹き抜けやリビングバルコニーが緩衝帯の役割を持つ。

このうち、表出が見られたのは清新北ハイツ、品川八潮ハイツ、屯であった。この3事例は共用部とリビングとの間にレベル差があり、窓に面して花台が設けられているため、プライバシーが確保されている、という共通点がある。花台があることは、居住者自身がそこを利用してプライバシーを確保するために植栽や簾を置くなど、表出行為を促す要因であると考えられる。一方で共用部と居室との距離感が近いライトコートKは表出されず寂しい印象を受ける。

2.2 中間領域

中間領域とは住むための空間を公と私の二つに分けるのではなく、その間に中間的な領域を置いて、それぞれの領域の間のつながりを緩やかにする。公と私の間にどちらにも繋がる中間領域の存在で、公と私の関係にふくらみが生まれることを狙う。

中間領域には主に植木が置かれ、中には椅子など戸外で活動している様子も伺えた。調査した事例全てに表出があり、このことから中間領域を設けることは表出行為に繋がると考えられる。

コマツナギテラスは居室を中心に中間領域に囲まれているが4面あるうち、最も表出物が多い面は南側であった。表出物に植木が多いことから日当りの善し悪しにも関わっていると考えられる。

balcoは他の3つの事例と比べると効果が弱かった。これは周辺が高い建物が並び、下の階は特に日差しが入りにくかったことや、建物陰に隠れ、人目につきにくい場であることも表出がなされない原因であると考えられる。

2.3 専用庭

専用庭は各々が自由に使い、庭の手入れがされるなど、表出している場合が多かった。共用庭でなく、住人が自由に手を加えることが出来る専用庭があることによって住宅に表情が出てくるようだ。

事例を見るとタウンハウス永山のように玄関を表とし、玄関を中心として表出しているの

に対し、中里三丁目のテラスハウスのように玄関周りには表出されていないものがあった。これは玄関周りのスペースの大きさに関係し、広い空間である方が表出されやすい。表出が行われるためには、飾るためのスペースが確保されていることも重要であるとわかった。

一方でヤクモアパートメントでは表出がなかった。他の事例は家族世帯を対象としているのに対し、ヤクモアパートメントは単身者向けのプランとなっている。家族世帯の方が家族同士で専用庭を使って戸外活動をする可能性が高いことから表出物が多くなり、反対に単身者は専用庭での活動が無く、駐車スペースとなってしまったと考えられる。

2.4 プラスワンルーム

プラスワンルームとは、住棟共用部に対して玄関の他にもう一つのアクセスにある「離れ」のような部屋を持つ住宅のことである。このような住宅を含んだストリート型住宅は、ストリート沿いの景観をつくり出すと共に、そこで行われる趣味等の生活を人に見せ、表出が期待されている。

プロムナード多摩中央では人通りの多い道沿いに対し、プラスワンルーム周辺は植木などが置かれ、華やかだった。道に対して住民たちが景観を良くしたいという意識が伺えた。しかし、プラスワンルーム自体は本来意図した使われ方はされていないことが多い。表出物が置かれる条件として、人目につく場であることも重要であると考えられるが、人目につきやすいことでプライバシー性が低くなり、住戸は閉ざしてしまう傾向にある。また表出というよりは、あふれだしとなることが多く、プラスワンルームでの表出は難しかった。以前はプラスワンルームとして機能していた住戸も近年は開放度が下がり、外部に対して閉鎖的になっているようだった。

2.5 土間・アクセスバルコニー

アクセスバルコニーとは公私空間の段階的な連続化をはかる計画手法としてバルコニーやテラスなどを通して住戸にアクセスする手法である。土間やバルコニーは緩衝空間となり、内外をゆるやかに繋ぐ要素を持つ。この計画要素は良い近隣関係を生み、そこで生活の一部が営まれ防犯的にも有効とされている。

土間・アクセスバルコニーは表出される場合が多く、表出を促す方法として有効であることがわかった。土間やバルコニーが居室と隣接していることや、それらが比較的広いスペースだ

ったことで生活空間の延長として利用される場合も多い。事例を見ると土間やバルコニーはオープンな場合が多いが、目隠しとなる物や、レベル差を設けたことでプライバシーにも考慮されている。

白金台の集合住宅 平面図 土間やバルコニーに表出物が置かれる一方で、園芸用具や廃品などのあふれだしも見られる。表出の空間であつてもあふれだしも多く見られると景観はあまり良くない。実用的なものが置かれる場所を理解し、外側にあふれだしが出ないよう生活行為の種類ごとに適切な場所をデザインすることが重要である

2.6 SOHO

SOHOとは自宅に小規模なオフィスを構える住宅であり、ITの進歩により通勤を必要としない新しいビジネスの誕生や女性や高齢者の社会参加が進んでいる背景から、ニーズが高まっている。

調査した事例を比較するとSOHOスペースの用途に違いが見られる。東雲キャナルコートはセキュリティ面から不特定多数の人が訪れるようなSOHOスペースの利用を認めていない。そのため、仕事場であっても住民の個人的なスペースとして使われる可能性が高く、外に開く行為が見られなかった。

一方で樺アパートメントは、住まう人と街との関わり合いを考慮し、SOHOは店舗スペースとして使われている。人を呼び込むためにそれぞれが看板や植木などで入り口を華やかにし、表出する様子が見られた。SOHOが住民にとって「公」として使うのか、または「私」として使うのかで違いが生まれる。

本事例は住空間とSOHOを積層させたプランであり、住空間に面して公共の場が隣接していないことから両事例ともにプライバシー性は高い。

2.7 長屋

長屋は各住戸と住戸の間のか壁以外に共有する部分が無く、各住戸に外部から直接出入りできるものである。そのため、上階にある住戸に対しては各住戸専用の階段室が生まれる。

階段室からは室内のプライベートな部分が表に出ることは無く、ガラス張りの空間であっても、プライバシーは守られているため、階段室に表出のある住戸があつた。一方で玄関も兼ねた空間であることから靴や傘などのあふれだしも見られた。

2.8 コーポラティブハウス

コーポラティブハウスは入居希望者が組合をつくり、居住者の合意による計画を合同で実現する方式であるため、住む前から住民同士の交流がある。コーポラティブ方式にはこのようにコミュニティの形成が事前に行われることや、自由設計、価格の適正化も図れるメリットがある。

コーポラティブハウスは住み手の要望を反映できるため、設計の段階から個性や好みを住宅に反映できる。集合住宅で見られるような同じ形の住宅が並ぶ中でドアやサッシ、専用庭のあり方などに変化を付けるのも表出させるための一つの手法であると言える

3 結論

- ・表出される割合が8割以上のものは「土間」「アクセスバルコニー」「SOHO」であつた。
- ・表出物を置く 間の広さも重要であり、空間の広い「土間」「アクセスバルコニー」をはじめ、「専用庭」「中間領域」には高い確率で表出物が置かれる。
- ・住民が景観を良くしたいという意識から道沿いに対して花などで飾る様子があつた。一方で、人目につかない隠れた空間であると意識は薄れ、表出が無い。
- ・住空間の開放性の高い計画であると住民は閉ざす傾向にあり、プライバシーを確保が必要。表出物の多くは植木であることから日当りの善し悪しも影響している。

「参考文献」

- 1) 新建築(1999~2013)
- 2) 資料集成[居住]
- 3) 眼を養い手を練れ2 集まって住もう
- 4) 現代集合住宅のリ・デザイン 事例で読む[ひと・時間・空間]の計画
- 5) 事例で読む現代集合住宅のデザイン
- 6) 豊田裕崇、高田光雄、吉田哲、井上晋一、宗本順三：あふれだし・表出の概念整理と窓に置かれた物への適用の妥当性-高密住宅市街地における建替集合住宅を事例として-
- 7) 花里俊廣：共居環境形成の仕組-集合住宅計画試論-